

## 第１回漁港建設業将来ビジョン策定委員会での 議論のポイントについて

### ●現ビジョン、新ビジョンについて

#### I. 現ビジョンについて

##### 1. 現ビジョンの概要

###### 1－1. 策定の主旨

###### 1－2. ビジョンの内容

##### 2. 現ビジョンの見直しの必要性

⇒ **現ビジョン策定以降の変化として、他に考慮すべきものはないか**

###### 2－1. 政策的な変化

(1) 新たな漁港漁場整備長期計画の策定 (H29.3)

(2) 水産政策改革 (H30.12)

###### 2－2. 水産業・漁村をとりまく環境の変化

(1) 水産資源・漁獲量の低迷

(2) 災害の増加・激甚化

(3) 温暖化の進行

(4) 漁村活力の低下と対策

(5) 市町村の担当者（技術者）の不足

###### 2－3. 建設業を取り巻く環境の変化

(1) 担い手3法及び運用指針の改正 (R1.6 R2.1)

(2) 担い手不足と外国人受け入れ制度の創設 (R2.3)

(3) 建設業における新型コロナウイルス対策

##### 3. 現ビジョンの評価

⇒ **現ビジョンの評価は適切か**

###### 3－1. 漁港建設業が果たす公益的役割の再評価

⇒ **公益的機能は確保できているか**

###### 3－2. 現ビジョンに位置付けられた目標（これからの建設業）の評価

###### 3－2－1. 適正な予算の確保

⇒ **適正な事業規模の考え方及びその評価は妥当か**

###### 3－2－2. 新たな事業分野を持つ長期計画

⇒ 事業分野の可能性は広がったか

### 3-2-3. 適正な入札制度

⇒ 適切な入札制度は達成できたか

### 3-2-4. 新たな漁港建設技術

⇒ 新技術の開発及び現場での実践は、目標どおり進捗したか

## II. 新ビジョンについて

### 4. 新ビジョンの検討

#### 4-1. 漁港建設業の公益的機能と役割の発揮

⇒ 漁港建設業が果たす具体的な公益機能・役割は必要十分か

##### (1) 地域社会への貢献

⇒ 地域イベントへの貢献、海浜・海域清掃、藻場干潟造成など

##### (2) 地域経済への貢献

⇒ 漁業活動支援、雇用の場の創出、新たな事業機会への参画など

##### (3) 地域の守り手としての貢献

⇒ 災害発生時の応急・本復旧支援、漁港施設の日常的維持管理など

##### (4) 国土保全と形成への貢献

⇒ 国土や沿岸域監視など

#### 4-2. 新ビジョンの考え方（課題と目標の設定）

⇒ 漁港建設業が健全に維持発展していくために必要な課題と目標は妥当か

##### 4-2-1. 【課題1】 儲かる漁港建設業

⇒ 適切な事業量の算定、運用指針の徹底目標をどのように考えたらよいか

##### 4-2-2. 【課題2】 成長する漁港建設業

⇒ どのような事業分野に魅力と可能性があるか

##### 4-2-3. 【課題3】 魅力ある漁港建設業

⇒ 働き方改革、生産性の向上の目標をどのように考えたらよいか

⇒ 新型コロナ対策としてどのような課題と目標が設定できるか

##### 4-2-4. 【課題4】 技術を創造する漁港建設

⇒ 技術開発課題と目標は適切か

### ●今後の検討課題について

(ビジョンの客観的根拠を強化するための対応について)

⇒ アンケート調査の具体的な項目や内容は妥当か

⇒ その他留意事項は